

ホンモノを暮らしに。京都マテリアル

空間の密度を上げる素材感のあるマテリアル。和紙クロスなどの商品として扱うことはあっても、そういったものをライブで創出されている**京都の手仕事**と、日頃ご提供している現場を、地繋がりで考えるのはちょっとしたハードルもある感じもあります。越えてみることを意識したのは数年前クライアントの社長さんに「こんな本あるし何か使えるものはないか検討してみて。」と『**京都のデザイン**』という本を渡されたのがきっかけでした。ページを繰って気になったのが、**京都版画館**さんのスタンドグラスの風情すらある**唐紙障子**が印象的な和室の写真。紙なら使えるかも!と不躰にもお電話を入れお邪魔した私のお相手下さったのは、西本願寺絵所を勤められる徳力家の12代で多色ながらも上品な木版画『**徳力版画**』として知られた**徳力富吉郎氏**をお父様に持つ**徳力みちたか氏**。氏のもとに集まる若手工芸作家さんの作品で彩られたお座敷で聞くそのお話は刺激的で面白く、**実生活に活かしてこそその伝統工芸**であり、お茶もお花も空間をつくるという部分で綺麗に繋がってくるものであることを改めて実感したものです。革新的なプロデューサーでもある氏の元には大手ハウスメーカーの企画室の方々も相談に来られるとのことですが、その時私が実現できたのは障子紙を少々「分けて」頂き、シナベニヤの建具のガラス窓に挟んで使用したり建具屋さんに行灯に仕立ててもらったり。ささやかなものでしたが木版画ならではの揺らぎが何とも言えない素敵な和の雰囲気を作ってくれました。

今回、**つなぐモデルハウス「とこしえ」**の、主に和室でお世話になった職人さんたちは徳力さんのご縁から繋がった方々です。京都版画館さんには御軸を三本お貸し出し頂き、それはそれは贅沢なオープンウィークを過ごさせて頂きました。現在は夏の終わりの石榴の絵ですが、近々色紙掛けとして仕立てて頂いたものに替えて秋の溢れる色紙を見立てる予定です。

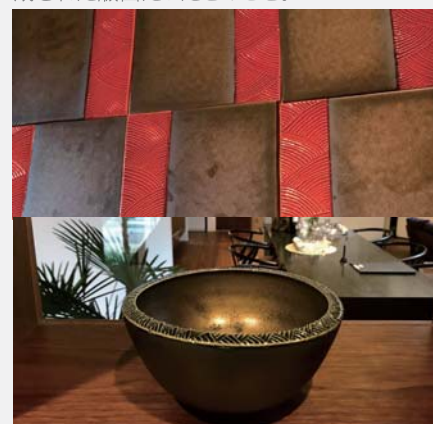
伝統工芸は残るべくして残ってきた価値あるもの、徳力さんの言葉通り生活の中で使われてこそさらに受け継がれていくでしょう。住空間に京都の手仕事を忍ばせる、或いは受け継がれてきた季節の設えを施すことで、日常生活の中で**ホンモノ**に触れ、**「感覚的に伝統的なものに親しむ」暮らし**は、京都で長年お仕事させて頂いている工務店だからこそご提案出来るもの。「とこしえ」では、計画段階で大切なテーマのひとつに据えさせて頂きました。上質なアイコンとして清水焼団地の丈夫窯様にご協力頂き、**丈夫窯×DEZAOインテリアマテリアル**としてご紹介しております。実物展示しております一点もののポウルやエントランスの棚を「飾る」ミニチュアからイメージするお好みの形を京焼が造るインテリアとして是非ご検討下さいませ。



京都版画館さんの唐紙障子を使用した行灯。そもそもが木版画の唐紙、襖同柄のものをアクリルコーティングしてオリジナルのセードを考えたりなかなか楽しめます。



「とこしえ」オープニングを飾ってくれたお魚柄のお軸。京都版画館さんにお借りしました。もともとは深山山荘の夏のしつらえとして作成された版画だったとのこと。



いっちゃん加工(筒描き)と美しい赤が印象的な丈夫窯さんの陶板とポウル。トイレではトータルに使用させて頂きました。ホールにはいろんな色のパターンのポウルのミニチュアを「ご鑑賞」いただけます。

📍 デザオ不動産流通

そういえば公示価格って?



公示価格とは、地価公示法に基づき、「公示区域において選定された全国の標準値について、毎年1月1日現在の単位面積あたりの価格が公示されるもの」です。3月下旬に発表され、価格のほか標準値の所在、地積、形状、標準地及びその周辺の土地利用の現況、標準地の前面道路の状況などが官報に搭載されます。そして、この価格は正常価格といわれるものです。正常価格とは、簡単に言うと、誰に対しても妥当性のある価格で、売り急いだりするような特別な背景もなく、販売開始から成約するまで相当期間を要したとする価格です。国等の行う取引はこの価格が基準となり、民間の取引においてもこの価格を指標とするように努めるべきものとされています。

ただ、実際に広告で見かける価格は、公示価格と著しく乖離していることもあります。売却の際は公示価格も参考にしつつ、査定の際に説明された市場動向が信頼に足るものかどうか、冷静に判断して売り出し価格を決定してくださいね。

お問い合わせはこちら

デザオ不動産流通 担当：戸谷 / TEL: 075-582-2446